

1. 単元名 「私の考える、みんなが住みやすい街 東大阪」

2. 単元の目標

- 世界や日本で起きている人種差別の問題や社会のグローバル化のなかで、様々な国籍の人が住みやすい社会を実現する重要性を理解することができる。 [知識及び技能]
- 学習の過程で学んだことを活かして、「みんなが住みやすい街 東大阪」を実現するために、自分たちができることを考えて周りの人や地域に発信したり、行動したりすることができる。 [思考力・判断力・表現力等]
- 調べたことやインタビューの結果などを活かしながら、様々な国籍の人が持つ思いを、自分の考えと関連させながら理解し、意欲的に伝えようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]

3. 単元について

(1) 教材観

急速にグローバル化する社会において、外国人と共生できる社会の実現は必要不可欠になっている。実際に、コンビニエンスストアなどの実生活のなかで外国人を見かける機会は大幅に増加している。本教材では、外国人と共生できる社会を実現するために、物事には多面性があることを理解したり、互いを尊重し合う態度を育てたりすることを目的としている。

まずは、1950年代後半から1960年代前半に、アメリカで起こった黒人の基本的人権を要求した運動である公民権運動や、近年世界的な運動となった **Black lives matter** を紹介する。これらを通して、人種差別の問題が存在したことや人権を獲得するために戦ってきた人々がいることを学習する。このような人種差別問題に関わって、大阪でもヘイトスピーチが問題視されている。令和元年には、ヘイトスピーチをなくし、全ての人がお互いに違いを認めあい、尊重しあう共生社会づくりをめざして、「大阪府ヘイトスピーチ解消推進条例」が施行された。実際に大阪に住む外国人の方の話聞いて、外国人と共生する社会を実現するために必要なことを考える。

(2) 生徒観

東大阪市における外国人住民は、2021年12月末現在、約2万人であり、国籍は約80カ国近くにのぼる。近年は外国人住民の数が増加に転じており、店などでも外国人を見かける機会が増加している。東大阪市には町工場が非常に多く、「技能実習」を目的とした外国人も本市には増加している。

生徒は第1学年で、韓国の中学生とのオンライン交流会を実施し、学校紹介や各国の文化を互いに紹介し合った。また、第3学年2学期には英語科で、公民権運動を率いたマーチン・ルーサー・キング・ジュニアの生涯を通して、アメリカ社会と人権、平等・不平等について学んでいる。教科書の内容理解の程度にはばらつきがあるものの、このような学習を通して、生徒たちは海外の国々やそこに住む人々に対して、関心を持つようになっていく。

(3) 指導観

本単元は、英語科で実施した、アメリカ社会と人権などについての学習を活かした指導を行いたい。まずは、英語科で学んだ公民権運動や人権問題について振り返りを行う。その後、このような人権問

題は現在でも解決すべき課題として存在し続けていることを理解させるために、**Black lives matter** の問題を紹介する。以前から学習し続けている公民権運動と同じアメリカ社会の問題を取り扱うことで、生徒たちが現代における人権問題について、より容易に自分の意見を持てるように工夫する。ここでは、生徒が **Black lives matter** について調べる学習活動を行う。**Black lives matter** には、様々な和訳があることを紹介し、調べた結果に基づいて、なぜ様々な和訳があるのかを考える活動を行う。目的ある学習をさせることで、動機づけにつなげたい。また、外国人の方から直接話を聞く機会を設け、その人々にとっての住みやすい街や外国人の方々が持っている思いを直接感じ取ることができるようにする。この活動を通して、東大阪市を新たな側面から見つめさせ、物事には多様な見方や考え方が存在することを体験的に学習させる。

これらの学習を通して誰もが住むやすい東大阪市とはどのようなものなのか主体的に考え、自分にできることを考え行動することを目的とする。

(4) ESD との関連

○本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

・多様性

人権を尊重する重要性を理解する学習を通して、私たちが生きる社会は、多様な文化的背景を持った人々で構成されており、その一人ひとりをもつ考え方や願いも多様であること。

○本学習で育てたい ESD の資質・能力

・未来像を予測して計画を立てる力

過去・現在に関わらず、差別されたりそれと闘ってきたりした人々がいることを知り、誰もが過ごしやすい社会を実現するために必要なことや、そのために自分ができることを考えること。

・つながりを尊重する態度

急速にグローバル化する社会において、多様な背景を持った人々と関わり合いながら生きることの必要性を知ったり、そのような繋がりを大切にしようとしたりすること。

○本学習で変容を促す ESD の価値観

・互いの人権・文化を尊重すること

多様な文化に触れることで、自分とは違う他者を受け入れ、その人々と私たちがよりよく生きようとする。

○達成が期待される SDGs

4. 質の高い教育をみんなに (4.7 20 30 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。)
10. 人や国の不平等をなくそう (10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①アメリカ社会における黒人差別や人権問題について	①世界と大阪府の人種差別について理解し、分かりやすく説明している	①自分で考えた聞きたいことを積極的に、外国人の方にインタ

<p>て、Black Lives Matter の問題を通して知識として理解している。</p> <p>②国内、特に大阪での差別問題について理解している。</p>	<p>る。</p> <p>②学んだことを活かして、外国人の方にインタビューしたいことを分かりやすく整理している。</p> <p>③外国人の方とのインタビューを通して学んだことを活かして、「様々な国籍の人が住みよい東大阪」を実現するために、自分たちにできることを考えている。</p> <p>④学んだことや考えたことをポスターやリーフレットなどにまとめて、話者に分かりやすく伝えている。</p>	<p>ビューしようとしている。</p> <p>②調べたことやインタビューの結果などを活かしながら、積極的に自分が考える「様々な国籍の人が住みよい東大阪」を考えようとしている。</p>
--	---	---

5. 単元の指導計画（全 12 時間）

	学習活動	指導上の留意点	評価
<p>第一 次 ④</p>	<p>○過去も現在でも人種差別に苦しんだ人々や、それと戦ってきた人々が存在し続けていることを知る。</p> <p>・英語科で学んだ、キング牧師やローザパークスが人種差別に苦しんだ歴史を振り返る。</p> <p>・Black lives matter について調べ学習する。</p>	<p>・英語科での既習事項にだけでなく、関連した新たな事例を扱うことで、多くの生徒が関心を持って学習できるように工夫する。</p> <p>・班で協力して調べさせる。</p> <p>・調べたことをもとに、Black lives matter に様々な和訳があることを知らせ、その理由を考えさせる。そのことによって、目的を持って学習を進められるようにする。</p> <p>・キング牧師の時代から人種差別問題が存在し続け、現在でも課題としてあることを理解させる。このことで、生徒たちが問題意識をより強く持てるよ</p>	<p>ワークシート (知識・技能①)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で起こっている人種差別問題を知る。 	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘイトスピーチの問題を中心に取り上げる。大阪府が出している、ポスターやリーフレットなどを紹介することで、身近なところにも問題が存在することを理解させる。 	<p>ワークシート (思・判・表①) (知識・技能②)</p>
第二 次 ③	<p>○日本に住む外国人の方にインタビューし、色々な国籍の人が住みやすい街に必要なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本に住む外国人の方に聞きたいことをまとめる。 ・日本に住む外国人の方に実際に話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に打ち合わせし、生徒たちが「みんなが住みやすい街 東大阪」を考えるきっかけとする。 	<p>ワークシート (思・判・表②)</p> <p>観察 (主体的に学習に取り組む態度①)</p>
第三 次 ⑤	<p>○「みんなが住みやすい街 東大阪」を実現するために行動しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話で聴いたことをもとに、自分なりの「みんなが住みやすい街 東大阪」とそれを実現するためにできることやしたいことを考える。 ・上で考えたことを多くの人に伝えるために、できることを考える。 ・発表・発信のための材料を作成する。 ・自分の学んだことや考えたことを他者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布したり、マインドマップを利用させたりして学習を補助する。 ・班活動で学習を進めさせる。ポスターや動画などの学習の成果物は、地域や学校で掲示などすることを伝え、モチベーションを引き出す。 	<p>観察・ワークシート (主体的に学習に取り組む態度②)</p> <p>ワークシート (思・判・表③)</p> <p>ワークシート (思・判・表④)</p>

指導：谷垣徹（奈良県立青翔中学校・高等学校）